

2シーズン連続でオオハクチョウと ペアリング行動をしたコハクチョウについて

小西 敢

098-5739 北海道枝幸郡浜頓別町クッチャロ湖畔
浜頓別クッチャロ湖水鳥観察館

はじめに

北海道浜頓別町クッチャロ湖では、2012年12月から2013年3月までの期間において、コハクチョウとオオハクチョウの求愛行動が見られた(小西 2013)。その後、2013年3月末にオオハクチョウが、複数飛来してきたためかペアは解消してしまい、2012-2013シーズンの観察は終了した。このコハクチョウは、人工衛星で追跡を行うため送信機の付いた首環が装着されていた。首環が取れた後も足環残っているため、容易に見分けができる(写真1)。雌雄は不明。首環の番号から183Yと呼んでいる(以下183Y)。2013-2014シーズンもこの183Yは、オオハクチョウと求愛行動を行っており、2シーズン連続となったため、ここで報告したい。

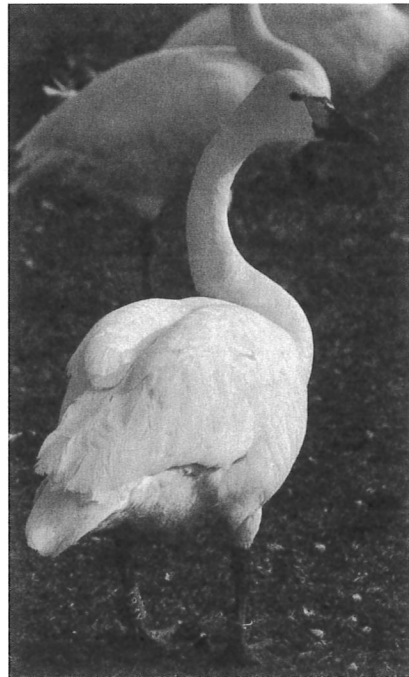


写真1 (左足に183Yのカラーリングが装着されている)

ハクチョウ類の異種間ペアについて

ハクチョウ類の異種ペアについては、古くからその記録は紹介されてきたが、自然界での事例は少なく飼育下などの特殊な環境の場合に限られて紹介されていた。1939年発行の「雁と鴨」(修教社書院)の中では、オオハクチョウと亜種アメリカコハクチョウ、オオハクチョウとナキハクチョウ、コブハクチョウとコクチョウ、コブハクチョウとガチョウ等の種間交雑が記載されている(黒田 1939)。また、繁殖には至っていないが、国内

でも 2000 ～ 2007 年頃まで、石川県羽咋市邑知潟でコハクチョウとコブハクチョウの番いが形成されていた（沢田 2013）。種間交雑かは不明だが、1999 年 2 月に鳥取県米子市で、オオハクチョウのような嘴の模様をしたコハクチョウの若鳥も観察された記録もある（桐原 2003）。

海外でも「Swoose」と名付けられたコブハクチョウとガチョウの交雑種が紹介されるなど、近年では、インターネットで検索すればハクチョウ類の異種間ペアを探すことができる。

クッチャロ湖に飛来する白鳥

クッチャロ湖に飛来する白鳥の殆どはコハクチョウで、オオハクチョウは飛来数の全体の 1 割以下。その他に亜種アメリカコハクチョウやコブハクチョウ、ナキハクチョウの記録がある。毎年、4,000 ～ 5,000 羽の白鳥が春と秋の渡りの時期に飛来している。毎年、渡って来た白鳥のうち約 400 羽が越冬している。越冬している白鳥も殆どがコハクチョウで、オオハクチョウは越冬数も少なく 2009-2010 年の冬は 3 羽、2010-2011 年は 0 羽、2011-2012 年 1 羽、2012-2013 年 1 羽、2013-2014 年は 2 羽であった。2013-2014 年の 2 羽は、最終的な越冬数で、2013 年 12 月下旬までは、今回、コハクチョウとペアになっていたオオハクチョウを含め 5 羽のオオハクチョウが越冬していた。

2012-2013シーズンの記録

2012 年は、11 月 29 日に 183Y を確認。12 月 30 日にペアとなるオオハクチョウが 1 羽で飛来。2013 年 2 月 22 日にペアで泳いでいる所を確認し、以降、3 月 1 日から 3 月 29 日までの間に複数回、鳴き交わしや二羽による他の番いへの追いだし行動が見られた（写真 2、写真 3）。3 月 31 日に鳴き交わしをしなくなった後、オオハクチョウは、他のオオハクチョウと共に北上したものと思われる。183Y は、5 月 3 日まで単独で滞在していた。

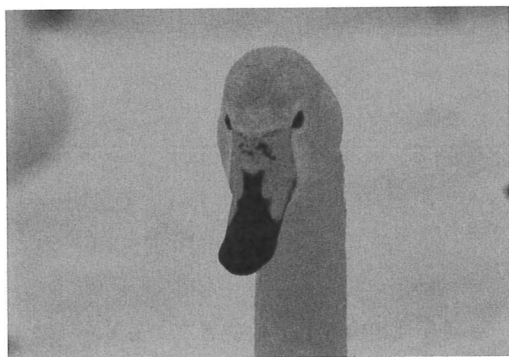


写真 2 (2013 年のペア相手)



写真 3 (2013 年 3 月の鳴き交わし)

2013-2014シーズンの記録

2013年11月17日に183Yの飛来を確認した。2012-2013シーズンに行動を共にしたオオハクチョウの姿は見られなかった。12月8日にオオハクチョウと一緒に行動をしている183Yを観察し写真を撮影した(写真4)。オオハクチョウについては、嘴の様相から、昨シーズンの個体とは別の個体という事が判った(写真5)。12月16日からは、ペアによる鳴き交わしも観察する事ができるようになり、年が明けた2014年1月9日まで行動を共にしている姿を確認していた(写真6)。しかし、1月10日にペアとなっていたオオハクチョウの姿を確認したのを最後に、それ以降、オオハクチョウは姿を見せず、他のオオハクチョウ等と南下してしまったと思われる。183Yは、その後も滞在を続け、4月27日まで確認している。



写真4 (寄り添って歩くペア・2013年12月)



写真5 (2014年のペア相手)

考 察

183Yは、2シーズン連続でオオハクチョウと番いになろうとしていた。ペアが解消されてからは、特にコハクチョウとペアリングを行うような行動は観察できず、何故かオオハクチョウに対して興味を示しているようだ。オオハクチョウについては、どちらの個体も周りにいたオオハクチョウの行動に影響されたのか、シーズンの終盤や途中で北上又は南下により、クッチャロ湖から移動してしまったようだ。他にオオハクチョウがいればコハクチョウとペアになる事は無かったのかも知れない。閉鎖的な環境で、コハクチョウしか周りにいなかった事や183Yからアプローチされたことにより、ペアの行動をとったのかもしれない。

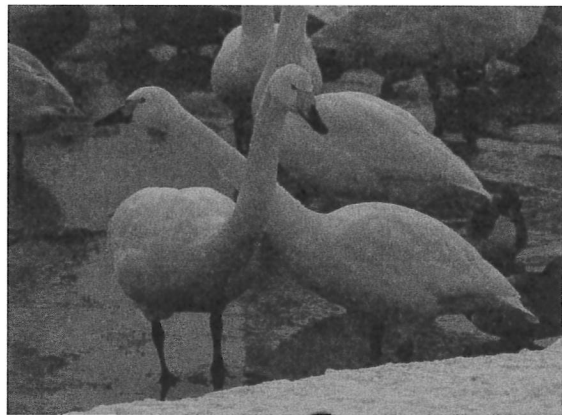


写真6 (2014年1月の鳴き交わり)

183Y は、毎年クッチャロ湖で越冬しているため、次シーズン以降も継続して行動を確認していきたい。また、可能なら 183Y を再捕獲して雌雄の確認やペアとなった場合、相手の個体についても標識を装着し、行動を把握していきたい。

なお、国内で同様にハクチョウ類の異種間の事例があれば、ぜひ報告して欲しい。

引用文献

gobirding.eu. < <http://www.gobirding.eu/Photos/Swoose.php> > (2014/8/31)

角田分. 2009. Swan in Japan その生態を追う. 北星印刷株式会社, 山形.

桐原政志. 2003. オオハクチョウと酷似した嘴の模様を持つ特異なコハクチョウの記録.

小西敢. 2009. めぐる季節と鳥たち. モーリー (20) : pp.104.

黒田長禮. 1939. 雁と鴨. 修教社書院, 東京

日本の白鳥 (27) : pp.20-23.

日本の白鳥 (37) : pp.9-12.

日本鳥類目録編集委員会. 2012. 日本鳥類目録改訂第七版. 日本鳥学会, 東京.

日本野鳥の会編集室. 1988. 個体識別によりコハクチョウの越冬群を調べる. 野鳥 (508) : pp.18-21.

山内昇. 1999. Lake Kutcharo 自然の楽園クッチャロ湖. クッチャロ湖湿原保全協議会, 北海道